

構文と意味の面からみた「受身」と「～てもらう」の使い分け

——「迷惑・被害の受身」の考察を通して

田 中 真 理

館 岡 洋 子

1. はじめに

作文や発話における「受身文」や「受益文（やりもらい文）」の誤用や使うべきところで使われていない「非用」は、中級後半や上級に至った日本語学習者においても、かなり多く認められる。（注1）これは、学習者にとって以下のことが明らかになっていないことが原因だと考えられる。

- (1) どんな動詞の受身が被害や迷惑の意味をもつのか（「間接受身」はいつも「被害」や「迷惑」の意味を持つと考えてよいのか。また、そうだとした場合、「被害」や「迷惑」の意味を持つのは「間接受身」の場合だけなのか）
- (2) 「受身」と「～てもらう」は大きくいえば「受動態」という同じヴォイスの中にあるが、その使い分けはどのようにになっているのか

まず、日本語の受身文を構文の面と意味の面から考えてみる。

構文面からは、「直接受身文」と「間接受身文」に分けられる。「直接受身文」は、能動文の目的語（直接目的語・間接目的語）を主語とする受身文である。一方、このような受身文に対して、受身文の主語と対応する目的語を能動文に求めることができない受身文を「間接受身文」と呼ぶ。間接受身は、直接受身と異なり有情主語を持たなければならない。間接受身には、自動詞の受身（妻に死なれる）、他動詞を補文とする受身（家の前にビルを建てられる）や、一般に「持ち主の受身」と呼ばれるもの（足を踏まれる）があるが、直接受身は他動詞の受身のみである。（注2）

また、意味の面からみると、「中立受身文」と「被害受身文」という二種類の受身があるとされている。（注3）本稿では「その動作を受けていることだけを表す受身」を「中立受身」と呼び、「能動文においては迷惑や被害の意が感じられないのに、受身文にすることによって新たに迷惑や被害の意がでる受身」を「迷惑・被害の受身」と呼ぶ。

（注4）

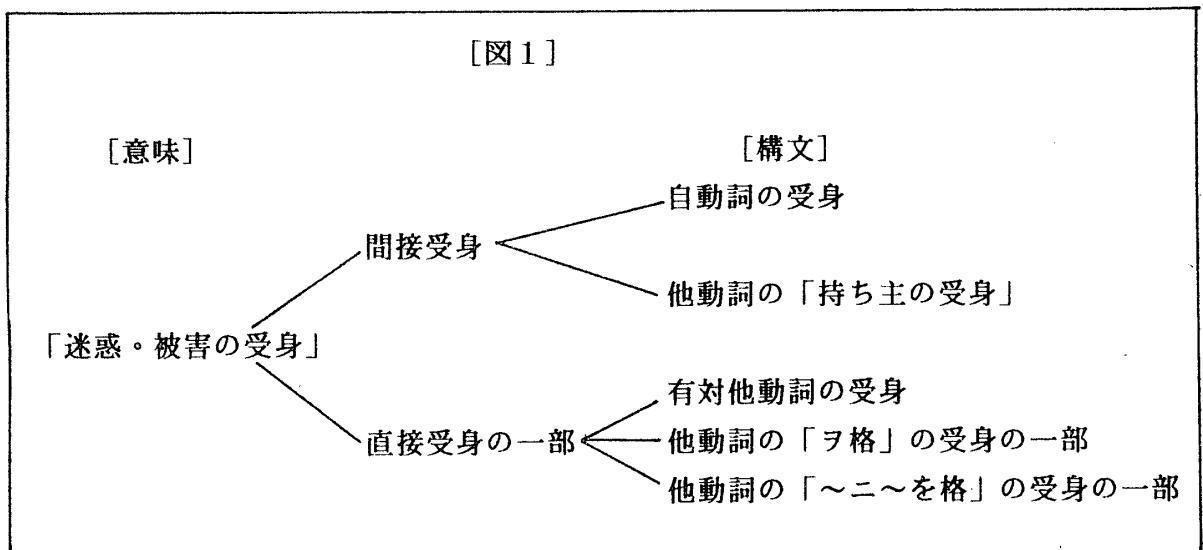
そこで、上記の（1）の問題点について考えてみると、学習者にとっては、どのような構文の受身のとき「中立受身」になるのか、またどのような構文の受身のとき「迷惑・被害の受身」になるのか、明らかでないのだと言える。（注5）受身文はいつも「迷惑や被害」の意味を持ってしまうと考えている学習者もいれば、だからこそそんな場合には「～てもらう文」にしているという学習者もいる。つまり（2）の問題がでてくるのである。そこで、どんな構文のとき「迷惑や被害」の意味を持つのか、構文と意味を結び付けるこ

とが必要になってくる。

この考え方にたって分類の枠組みを示すと、[表1]のようになる。(注6)本稿では、「受身文」および「～てもらう文」の主語(行為の主体)を一人称「私」に限って検討する。この枠組みによる分類については、田中・館岡(1991)を参照されたい。この時点からさらに検討を加え改定した動詞分類表を巻末に掲載する。(注7)

2. 構文と意味の結び付け——「迷惑・被害の受身」

前述の動詞分類をふまえ、どんな構文の場合「迷惑・被害の受身」が作られるのかを考える。[図1]は動詞分類表中の☆(迷惑や被害の意を新たに出すことを表す)を整理してまとめたものである。これによると「迷惑・被害の受身」は直接受身、間接受身の両方から作られる。この点について以下に詳しくみていく。



2-1 「間接受身」の場合

まず、ほとんどの間接受身は「迷惑・被害の受身」を作る。(注8)では、間接受身を作るのはどのような場合かという点、自動詞の受身および他動詞の「持ち主の受身」といわれるものなどである。(注9)ここでは、「人ノ～(所有物・身体の一部など)」という属格を含む名詞句を「ヲ格/ニ格」にとる能動文の受身を「持ち主の受身」と呼んでおく。動詞分類表ではⅡの動詞のグループにあたる。

2-2 「直接受身」の場合

直接受身は「迷惑・被害の受身」になる場合とならない場合がある。まず、有対他動詞と無対他動詞にわけて考察する。

(1) 有対他動詞

有対他動詞(I-1)は、I-1-A2の「助ける」「育てる」などを除いて、一般に

[表1]

<p>I Yガ</p> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> $\left. \begin{array}{l} Xヲ \\ Xニ \\ Xニ～を \end{array} \right\}$ </div> <p style="display: inline-block; vertical-align: middle;">Vスル (X:私)</p> <p>(他動詞の能動文でヲ格・ニ格・ニ～を格「X」に「私」をとる場合)</p> <p>1 【有対他動詞】 (対応する自動詞がある場合)</p> <p>A 【ヲ格】</p> <p>A 1 [人を移動させる働きかけを表す] 動詞</p> <p>A 2 A 1以外で[人と関係する] 動詞</p> <p>B 【ニ～を格】</p> <p>2 【無対他動詞】 (対応する自動詞がない場合)</p> <p>A 【ヲ格】</p> <p>A 1 [物理的行為を表す] 動詞</p> <p>A 2 [感覚・感情の動き/精神的行為を表す] 動詞</p> <p>A 3 [「私」が思考、行為の対象となる] 動詞</p> <p>B 【ニ格】</p> <p>B 1 [「私」に物理的に影響を与える] 動詞</p> <p>B 2 [「私」に対して動作主が何らかの態度をとることを表す] 動詞</p> <p>B 3 [「私」に対する感情を表す] 動詞</p> <p>B 4 [相互動作に近い] 動詞</p> <p>C 【ニ～を格】</p> <p>C 1 [「私」に対して行為を要求する] 動詞</p> <p>C 2 [「私」に対して行為を要求しない] 動詞</p> <p style="padding-left: 2em;">a 「私」が動作の向けられる対象であることだけを示す場合</p> <p style="padding-left: 2em;">b 能動文において「私のために」を含意する場合</p> <p>D [受身的な授受関係を構成する] 動詞</p> <p>II Yガ Xノ～を／に Vスル</p> <p>(他動詞の能動文で属格「Xノ」を含む名詞句(「私ノ～」)を目的語にとる場合)</p> <p>A 【私ノ～を】</p> <p>B 【私ノ～に】</p> <p>III Yガ Vスル</p> <p>(自動詞の能動文を補文とする場合)</p>
--

受身にすると、「強制的」な感じを伴い、迷惑の意が出る。これは意味内容としては同じことを表す自動詞があるからだと考えられる。

(動詞分類表 I-1-A1、I-1-B) (注6、10)

(人を) 出す (他動詞)	(人が) 出される (他動詞の受身)
	(人が) 出る (自動詞)
(人に～を) 見せる (他動詞)	(人が～を) 見せられる (他動詞の受身)
	(人が～を) 見る (自動詞)

(2) 無対他動詞

無対他動詞 (I-2) では、能動文においてその動詞がどのような格をとるかが、「迷惑・被害の受身」となるかどうかを決める大きな要素となる。

① 「ヲ格／ニ格」をとる直接受身

能動文で「ヲ格に人 (私) をとるもの」および「ニ格に人 (私) をとるもの」は、次に述べる場合を除いて、一般に「迷惑・被害の受身」を作らない。

a. 「人を移動させる働きかけを表す」動詞は、無対他動詞においても「迷惑・被害の受身」を作る。これは行為の受け手が自発的に移動する可能性がある (例えば「送られる」に対して「自分で行く」) にもかかわらず受身形を使うからだと考えられる。(動詞分類表 I-2-A1)

(人を) 送る	(人が) 送られる
(人を) 連れて行く／来る	(人が) 連れて行かれる／来られる

b. 動詞分類表 I-1-A3 中の「見る／診る」「待つ」は「迷惑・被害の受身」を作る。これらは動作主の目的格に対する働きかけが一方的な動詞だと考えられる。使用頻度の高い動詞でもあるので、学習者に注意を喚起する必要がある。

② 「ニ～を格」をとる直接受身

「ニ～を格」の場合は、ニ格の前にくる対象 (人) への働きかけが直接的であるか間接的であるか (動作主と受け手である対象との関係) および「ニ～を」の「～」の部分の内容によって「迷惑・被害の受身」を作る場合と作らない場合がある。間接受身が「迷惑・被害の受身」を作るように、直接受身においてもその働きかけが間接的であるほど迷惑や被害の意を含意する。この点について以下考察する。

まず「ニ～を格」をとる動詞を、ニ格に対して「行為を要求する動詞 (C1)」と「行為を要求しない動詞 (C2)」に分類したが、C1のグループの動詞はここでの検討対象ではない。(注11)

「ニ格に対して行為を要求しない動詞 (C2)」の場合を考えると、動詞を構文面および意味の面からだけでは分類できず、語用論的観点からの考察が必要となる。動作主と受け手である対象との関係、何を、何／誰のためにといった点、つまり文脈によって決定す

る要素が大きい。C 2は次の a. b. に分けられるが、これは働きかけが直接的であるかどうかによっている。(aのほうがより直接的だと言える)

C 2 - a. 「私」が直接に動作の向けられる対象であることだけを示す場合

1 a 後ろの人が私に声をかけた

1 b 私は後ろの人に声をかけられた

これらは「私のために何かを」というのではなく、「私」は直接に動作が向けられる対象である。この場合は受身形において「中立」であり、迷惑の意を含意しない。

C 2 - b. 能動文において「私のために」を含意する場合(「~てくれる」文が成立する場合)

2 a 先生が推薦状を書いた

2 b 先生に推薦状を書かれた

2 c 先生に推薦状を書いていただいた/もらった

2 bの受身文は「私」に直接的に働きかけるというよりも「私のために」という間接的な働きかけなので、迷惑を含意する。(注12)したがって恩恵や感謝の気持ちを表す場合には「~てもらう」を、迷惑の意を表す場合には「受身形」を、文脈によって使い分けなければならない。例えば「水をかける」を考えてみると以下のような使い分けができる。

マラソンの途中でならば

3 a 沿道の人が私に水をかけてくれた

3 b 私は沿道の人に水をかけてもらった

なかなか起きない「私」にであれば

4 a 母が私に水をかけた

4 b 私は母に水をかけられた(直接受身)

子供が水鉄砲で遊んでいるときに偶然そばを通過してであれば

5 a 子供が水のかけ合いをしていた

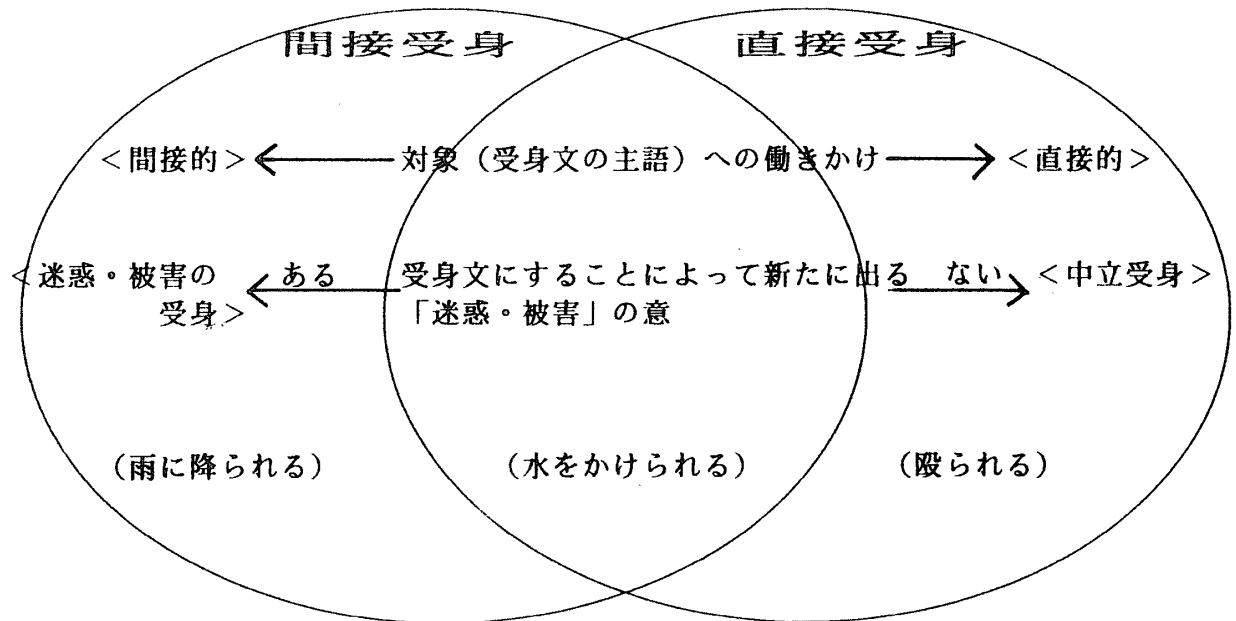
5 b 私は子供に水をかけられた(間接受身)

「水をかける」という行為が受身文の主語「私」にとって益になるような場面では 3 b のように「~てもらう」で表し、3 b に対応する能動文は 3 a の「~てくれる」文である。それに対し、4 b, 5 b はともに構文は同じで、「私」には被害者の意識があるが、前者は直接受身、後者は間接受身である。なぜなら、4 b には対応する能動文 4 a があるが 5 b には対応する能動文がない。5 a においては「私」と行為者「子供たち」とは関係がない。つまり「私」への働きかけはないと言える。「私」は偶然巻き込まれたのである。もともと係わりがないものを 5 b では「私」を主語にして受身文にすることによって係わらせてしまうのであるから、その働きかけは間接的だと言える。そのとき迷惑や被害の感じが表される。それに対し 4 b は、能動文 4 a に「迷惑・被害の感じがなかったのに受身文にすることによって新たに迷惑・被害の意味が出た」のではない。能動文においても迷惑・被

害の感じを持っている。つまり本稿でいう「迷惑・被害の受身」ではない。

上記のように受身文の主語への働きかけが直接的か間接的かという観点から「迷惑・被害の受身」について考えると、[図2]のようにまとめられる。(注13)

[図2]



3. 「受身」と「～てもらう」の使い分け

かなり上級の学習者からも「～てもらう」は難しいので受益文はいつも「～てくれる」で表すようにしているという声を聞く。また、「ほめる」「誘う」などの聞き手にとって一般に益になるような意味を持った動詞の場合には、いつも「～てもらう」を使うものだと思って、「ほめられる」「誘われる」という中立の受身形を使うことができないケースも多い。

そこで、まず「～てもらう」文の意味について考えてみると、これは人が動作・出来事から利益（好ましい結果）を受けることを表す「受益」の表現で、受益者がガ格であるときに用いられる。(注14) 益岡・田窪(1989)によると、「～てもらう」の表現は、受動表現に対応する場合と、使役表現に対応する場合がある。

- 6 a 皆に絵を誉めてもらった
- 6 b 皆に絵を誉められた
- 7 a 花子に代わりに行ってもらった
- 7 b 花子に代わりに行かせた

6 a の「～てもらう」文は、6 b の受身文に対応する。つまり、意味の上で「その動作を受けたこと（受身）」と「受益」を表しており、以下のように書き替えられる。

誉めてもらおう……「受益」+誉められる（受身）

それに対し、7 a の「～てもらう」文は、7 b の使役文に対応する。つまり、意味の上で「その動作をさせたこと（使役）」と「受益」を表している。

行ってもらおう……「受益」+行かせる（使役）

以上のように「～てもらう」文の意味を「受身型」と「使役型」に分けて考えると、使い分けは以下のようなになる。

3-1. 「迷惑・被害の受身」を作る動詞グループ

「迷惑・被害の受身」を作る動詞の場合、「～てもらう」文は「使役型」となる。「～てもらう」は、基本的には「受益」の意味を持っており、それに加えて「使役的な」意味も持っている。この「使役型」の「～てもらう」については、「～ニ格」にくる人に対する強制度の強さによって、さらに二つに分けられる。強制度は強くなく依頼の意味で何かしてもらうのか、あるいは強制度が強く命令的な意味を持つのかによって、前者を「使役型（依頼）」と呼び、後者を「使役型（婉曲的命令）」と呼ぶ。

①「受益」+「使役型（依頼）」の例

姉が私の手紙を読んだ（中立）

[受身] 私には姉に手紙を読まれた（迷惑・被害）

[てもらう] 私は姉に手紙を読んでもらった（受益+依頼）

②「受益」+「使役型（婉曲的命令）」の例

山田さんが帰った（中立）

[受身] 私は山田さんに帰られた（迷惑・被害）

[てもらう] 私は山田さんに帰ってもらった（受益+婉曲的命令）

①のグループに入るのは、直接受身を作る他動詞の一部と、間接受身を作る他動詞である。（動詞分類表Ⅰ-1-A1, Ⅰ-1-B, Ⅰ-2-A1, Ⅰ-2-C2b, Ⅱ）

②のグループの動詞は自動詞である。（動詞分類表Ⅲ）

自ら働きかけて益を被った場面で、「～てもらう」文ではなく「受身文」にすると、このグループの動詞は意に反して迷惑や被害の意味をもってしまうので、学習者に特に注意を促す必要がある。

3-2. 「中立受身」を作る動詞グループ

8 私、きのうパーティーに誘ってもらったんだけど行けなかったんです（アメリカ）

この誤用例のような動詞の場合、学習者は「いいこと」をされた（してもらった）のでいつも「～てもらおう」をつけると考えている。これら「中立受身」を作る動詞のグループでは、「～てもらおう」文は受身型となる。基本的に、受身文では「その動作を受けたこと」を表し、「～てもらおう」の文では「その動作を受けることによって、益を被ったこと」を表している。例えば「誘う」の場合、「誘われる」「誘ってもらおう」両方の文が成立するが、その意味を考えてみると次のように分解できる。

「誘ってもらおう」……………「誘われる（受身）」＋「受益」

したがって、単に「誘う」という行為を受けたことだけを表したければ、「誘われる」とするべきである。「誘ってもらった」とした場合、「誘われた」と比較すると「以前から誘ってくれるように頼んでおいた」または「誘われて大変感謝している」というような意味が加わる。誘ってくれた相手の前では、「お誘いいただいて～」というように、待遇表現上「～てもらおう」を使い感謝を表すのが普通である。

このグループに入る動詞は「ほめる」「招待する」「誘う」「認める」などである。

（動詞分類表 I-2-A3）

3-3. 一般的に「～てもらおう」が使えない動詞グループ

① 「～てもらおう」は本来、恩恵を被ったことを表すのであるから、行為の受け手にとって一般的に不利益と言えるような意味をもつ動詞には「～てもらおう」は使えない。

I-2-A1 殺す *殺してもらおう

I-2-C1 命じる *命じてもらおう

② また「行為者の感覚・感情に依存する精神的行為を表す」動詞の場合には、行為の受け手がコントロールすることはできないので、「～てもらおう」はつけられない。

I-2-A2 愛する *愛してもらおう

I-2-B3 憧れる *憧れてもらおう

③ 自動詞も行為の受け手がコントロールできないが、能動文の主語が人のとき、「～てもらおう」をつけると前述のように「婉曲的命令（使役型）」の意味を持つ。自動詞は本来、人に働きかけないが、「～てもらおう文」にすると働きかけ（影響）が生じ、コントロールできないはずのものに対して、命令の意味が生じる。

Ⅲ 早く起きる 早く起きてもらおう

また自動詞でも自然現象の場合には「～てもらおう」をつけることはできない。

Ⅲ 雨が降る *雨に降ってもらおう

ただし「～てもらいたい／もらおう／もらおうつもりだ」などのように話し手の希望や意志を表す場合はつけることができる。

4. まとめ

「受身文」と「受益文」の誤用や非用が多いという現状をふまえ、同じヴォイスの中にある「受身」と「～てもらう」の使い分けを明らかにするために、直接受身と間接受身という構文上の分類と、「中立受身」と「迷惑・被害の受身」という意味上の分類をリンクさせて、動詞分類を行った。その結果、能動文では感じられないのに受身文にすることによって新たに迷惑や被害の意味がでてしまうのはどんな場合であるかが、ある程度整理できたと思う。動詞の分類作業を行うことによって明らかになったのは、迷惑や被害の意は、対象（受身文の主語）への働きかけが直接的であるかどうかに関係しているということである。自動詞の受身や、他動詞の「持ち主の受身」はその端的な例である。能動文に受身文の主語「私」と対応する目的語がないということは、受身文で主語になるもの「私」への働きかけは本来ない（自動詞の場合）、または間接的である（「持ち主の受身」の場合）ということの意味する。つまり、もともと係わりがない、あるいは間接的であるものを「受身」という形を使って「係わらせて」しまうのである。

したがって、間接受身が迷惑や被害の意味を持つのは当然であり、このことは日本語教育においても一般に言われている。しかし、直接受身の場合も同様に、受身文の主語、つまり能動文のヲ格・ニ格にくる「人」（本稿では「私」）への働きかけが直接的であるかどうかによって、迷惑や被害の意味を持ちうるわけである。

以上のように「受身」が整理されることによって初めて、「～てもらう」との使い分けが明確になる。「迷惑・被害の受身」を作る動詞グループは使役型の「～てもらう」文を作り、「中立受身」を作る動詞グループは受身型の「～てもらう」文を作る。今回の整理によって、少なくとも学習者が受身文において意図せずに「迷惑・被害の受身」を作り、母語話者に不快感や誤解を与えることは避けられるのではないだろうか。

田中真理（国際基督教大学）

館岡洋子（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター）

【動詞分類表】

〔動詞分類に基づく「受身文」と「～てもらう文」〕

動詞分類表は前述の〔表1〕の枠組に基づく。左端に動詞の基本形をその動詞がとる格とともに示す。中央にその動詞から派生する「受身文」の典型的だと考えられる例を示し、右端に「～てもらう文」を示す。ここでは能動文のヲ格及びニ格にくるものを「私」に限っているので、「受身文」及び「～てもらう文」の主語はすべて「私」である。

そして、能動文において行為を受ける対象、つまりヲ格・ニ格にくるものにとって一般に不利益の意を含んでいると考えられる動詞には左端に▲を付す。次に、その動詞の「受身文」において、能動文においては迷惑や被害の意が感じられないのに、受身にすることによって新たに迷惑や被害が出る場合に☆を付す。さらに、その動詞の「～てもらう文」の例を検討し、意味的に非文になる場合に*を付す。

また、各分類の最後に学習者の使用例を (○：正用、×：誤用あるいは非用〔学習者の用例→正用の形〕) に示す。

【動詞分類表】

I 他動詞の能動文でヲ格・ニ格・ニ～を格に「私」をとる場合

1 【有対他動詞】

A 【ヲ格】

I-1-A1 [人を移動させる働きかけを表す] 動詞

ヲ 降ろす ☆途中で降ろされる 途中で降ろしてもらう
(降りる)

ヲ 出す ☆部屋から出される 部屋から出してもらう
(出る)

ヲ 帰す ☆本国に帰される 本国に帰してもらう
(帰る)

▲ヲ 閉じ込める 部屋に閉じ込められる *部屋に閉じ込めてもらう
(閉じこもる)

○部屋に閉じ込められる ○蛍がびんから出される

[使役形及びその短縮形]

ヲ 行かせる ☆日本に行かせられる 日本に行かせてもらう
行かす ☆日本に行かされる ?日本に行かしてもらう
(行く)

ヲ 転動させる ☆転動させられる 転動させてもらう
(転動する)

×日本に [行かす→行かせられる] ○転動させられる

× [歩かせる→歩かせられる] ×会話が困らせられる

I-1-A2 A1以外で [人と関係する] 動詞

ヲ 助ける 通りがかりの人に助けられる 通りがかりの人に助けてもらう
(助かる)

ヲ 育てる 祖母に育てられる 祖母に育ててもらう
(育つ)

▲ヲ 苦しめる (苦しむ)	友人に苦しめられる	*友人に苦しめてもらう
▲ヲ つかまえる (つかまる)	警察につかまえられる → 警察につかまる	*警察につかまえてもらう

○人に助けられる

B【二～を格】

I-1-B

二～を 届ける (届く)	☆荷物を届けられる	荷物を届けてもらう
二～を 見せる (見る)	☆国宝を見せられる	国宝を見せてもらう
二～を 着せる (着る)	☆着物を着せられる	着物を着せてもらう

×モダンな橋を見せられる ○すてきな着物をを見せてもらう

[使役形及びその短縮形]

二～を 知らせる 知らせ (知る)	?結果を知らせられる ☆結果を知らされる	結果を知らせてもらう ?結果を知らしてもらう
二～を 取らせる 取らす (取る)	?授業を取らせられる ☆授業を取らされる	授業を取らせてもらう ?授業を取らしてもらう
二勉強をさせる (勉強をする)	☆勉強をさせられる	勉強をさせてもらう

○ホームステイ先を知らされる ×先生は生徒に手紙を書かされる
×授業を [取らせる→取らせられる→取らなくてはいけない]
×(みんなに聴いてほしい場面で) 歌を歌わせられる

2 【無対他動詞】

A 【ヲ格】

I-2-A1 [物理的行為を表す] 動詞

▲ヲ 殺す	殺される	*殺してもらう
▲ヲ 押す	後ろの人に押される	*後ろの人に押してもらう
ヲ 連れて行く	☆～へ連れて行かれる	～へ連れて行ってもらう
ヲ 車で送る	☆車で送られる	車で送ってもらう
ヲ 迎えに来る(注15)	☆迎えに来られる	迎えに来てもらう

○戦争で殺される ○悪いやつに追われる ×デパートへ連れて行かれる
×駅まで車で送られる ×迎えに来られる

I-2-A2 [感覚・感情の動き/精神的行為を表す] 動詞

ヲ 愛する	みんなに愛され(ている)	*愛してもらう
▲ヲ 嫌う	みんなに嫌われ(ている)	*嫌ってもらう
ヲ 尊敬する	みんなに尊敬され(ている)	*尊敬してもらう
▲ヲ 差別する	差別され(ている)	*差別してもらう
ヲ～と思う	日本人だと思われ(ている)	*日本人だと思ってもらう

○キング牧師は尊敬されている ○黒人は差別されている
○外国人として受け入れられる

I-2-A3 [「私」が思考、行為の対象となる] 動詞

ヲ ほめる	ほめられる	ほめてもらう
ヲ 認める	認められる	認めてもらう
ヲ 誘う	映画に誘われる	映画に誘ってもらう
ヲ 選ぶ	議長に選ばれる	議長に選んでももらう
ヲ～と呼ぶ	お嬢さんと呼ばれる	お嬢さんと呼んでももらう
	間抜けと呼ばれる	*間抜けと呼んでももらう
ヲ 招待する	招待される	招待してもらう
ヲ 紹介する	紹介される	紹介してもらう
▲ヲ 無視する	無視される	*無視してもらう
▲ヲ 逮捕する	逮捕される	*逮捕してもらう
▲ヲ だます	だまされる	*だましてもらう
▲ヲ しかる	しかられる	*しかってもらう

ヲ 待つ	☆友達に待たれる	待ってもらう
ヲ 見る	☆みんなに見られる	見てもらう
ヲ 診る	☆医者に診られる	医者に診てもらう

- 映画に誘われる ×映画に誘ってもらう ○社員に選ばれる
 ○「英語系グループ」と呼ばれる ○三鷹市役所に招待される
 ×A氏に「紹介する→紹介される」 ○無視される
 ○謝らないと変な目で見られる ○翻訳部門に配属される
 ×議員に任命「する→される」 ×仲間はずれに「させる→される」
 ○スターのように扱われる ×友達「がいじめる→にいじめられる」

B【二格】

I-2-B1 [「私」に物理的に影響を与える] 動詞

▲ニ とびかかる	犬にとびかかられる	*犬にとびかかってもらう
▲ニ ぶつかる	バイクにぶつかられる	*バイクにぶつかってもらう
▲ニ 触る	痴漢に触られる	*痴漢に触ってもらう

- ×歩きながら他の人に「ぶつけられる→ぶつかる」

I-2-B2 [「私」に対して動作主が何らかの態度をとることを表す] 動詞

ニ 親切にする	大家さんに親切にされる	大家さんに親切にしてもらう
▲ニ 反対する	皆に反対される	*皆に反対してもらう
ニ 話しかける	見知らぬ人に話しかけられる	*見知らぬ人に話しかけてもらう
	忙しいときに話しかけられる	寂しいときに話しかけてもらう
ニ～と言う	変な外人と言われる	*変な外人と言ってもらう
	きれいねと言われる	きれいねと言ってもらう
ニ～と聞く	～と聞かれる	*～と聞いてもらう
ニ～と教える	～と教えられる	～と教えてもらう

- 大家さんに親切にしてもらう ○休むように言われる
 ○「変な外人」と言われる ○どこに住みたいかと聞かれる
 ×どうして～かと「聞く→聞かれる」 ○ここは危ない町だと教えられる

I-2-B3 [「私」に対する感情を表す] 動詞

ニ 恋する	*恋される	*恋してもらう
ニ 憧れる	憧れられる	*憧れてもらう
ニ 感謝する	感謝される	*感謝してもらう

I-2-B4 [相互動作に近い] 動詞

ニ/ト 会う	*会われる	*会ってもらう
ニ/ト 相談する	相談される	*相談してもらう

C【ニ～を格】

I-2-C1 [ニ格に対して行為を要求する] 動詞

▲ニ～を命じる	出張を命じられる	*出張を命じてもらう
▲ニ～を禁じる	たばこを禁じられる	*たばこを禁じてもらう
▲ニ～を頼む	買い物を頼まれる	*買い物を頼んでもらう

○くつしたを貸すように頼まれる

I-2-C2 [ニ格に対して行為を要求しない] 動詞

a [「私」が動作の向けられる対象であることだけを示す場合]

ニ声をかける(注16)	見知らぬ人に声をかけられる	*見知らぬ人に声をかけてもらう
ニ道聞く	道を聞かれる	*道を聞いてもらう
ニ挨拶をする	近所の人に挨拶をされる	?近所の人に挨拶をしてもらう
ニ飲物を勧める	飲物を勧められる	?飲物を勧めてもらう

b [能動文において「私のために」を含意する場合]

[サ変動詞]

ニ寄付をする	☆企業に寄付をされる	企業に寄付をしてもらう
ニ注射をする	☆医者に注射をされる	医者に注射をしてもらう
ニスピーチをする	☆結婚式でスピーチをされる	結婚式でスピーチをしてもらう

〔「～を」の「～」が固定しているもの〕

二席を譲る(注12)	席を譲られるのは照れ臭い	席を譲ってもらうには勇気がいる
	(注16) ☆まだ若いのに席を譲られる	気分の悪い時に席を譲ってもらう
二食事をおごる	☆食事をおごられる	食事をおごってもらう
二電話をかける	☆電話をかけられる(注17)	電話をかけてもらう
二歌を歌う	☆歌を歌われる	歌を歌ってもらう

×電話をかけられる ×誕生日の歌を歌われる

〔「～を」の「～」が固定していないもの〕

二～を教える(注12)	負うた子に道を教えられる	負うた子に道を教えてもらう
	☆間違っただけを教えられる	先生に日本語を教えてもらう
二～を説明する(注12)	使用法を説明される	使用法を説明してもらう
	☆何度も同じことを説明される	わからない語を説明してもらう
二～を贈る(注12)	子供達から花束を贈られる	花束を贈ってもらう
	☆高価なものを贈られて困る	りっぱなものを贈ってもらう
二～を書く	☆挑戦状を書かれる	推薦状を書いてもらう
二～を作る	☆まずい料理を作られる	好物を作ってもらう
二～を買う	☆ほしくもないものを買われる	入学祝いを買ってもらう
二～を送る	☆小包を送られる(注17)	小包を送ってもらう
二～を貸す	*金を貸される	金を貸してもらう

×推薦状を書かれる ×巡査に道を教えられる ×ラテン語を教えられる
×好きな料理を作られる ×時計を買われる ×羊羹を送られる

I-2-D [受身的な授受関係を構成する] 動詞(注18)

二～をもらう	*もらわれる(注18)	子猫をもらってもらう
二～を預かる	*預かられる	荷物を預かってもらう
二～を教わる	*教わられる	*教わってもらう
二～を習う	*習われる	*習ってもらう

II 他動詞の能動文で属格を含む名詞句（「私ノ～」）を目的語にとる場合

A 【私ノ～を】

私ノ～を見る	☆日記を見られる	(添削のために)作文を見てもらう
私ノ～を増やす	☆残業を増やされる	給料を増やしてもらう
私ノ～を減らす	☆給料を減らされる	残業を減らしてもらう
私ノ～を食べる	☆好物のケーキを食べられる	食べきれないので食べてもらう
私ノ～を手伝う	☆仕事を手伝われる	仕事を手伝ってもらう
私ノ～を治す	☆病気を治される	病気を治してもらう
私ノ～を直す	☆作文を直される	作文を直してもらう
私ノ～を掃除する	☆部屋を掃除される	部屋を掃除してもらう
私ノ～を持つ	☆荷物を持たれる	荷物を持ってもらう
私ノ～を読む	☆手紙を読まれる	ドイツ語の手紙を読んでもらう
私ノ世話をする	☆世話をされる	世話をしてもらう
私ノ写真ヲ写す	☆写真を写される	写真を写してもらう
私ノ～をほめる	絵／息子をほめられる	絵／息子をほめてもらう
私ノ～を認める	論文を認められる	論文を認めてもらう
私ノ～を喜ぶ	土産を喜ばれる	土産を喜んでもらう
	☆ライバルに失敗を喜ばれる	*失敗を喜んでもらう
▲私ノ～をこわす	パソコンをこわされる	*パソコンをこわしてもらう
▲私ノ～をなぐる	顔をなぐられる	*顔をなぐってもらう
▲私ノ～を盗む	財布を盗まれる	*財布を盗んでもらう
▲私ノ～を殺す	子供を殺される	*子供を殺してもらう

×着物を着るのを手伝われる ×先生に作文を直される
 ×写真を写される ○指紋をとられる ○命を脅かされる
 ○美しさ／存在を認めてもらう (注19)

B 【私ノ～に】

私ノ～に答える	☆質問に答えられる	質問に答えてもらう
▲私ノ～にしみをつける	スカートにしみをつけられる	*しみをつけてもらう
▲私ノ～にはねをあげる	服にはねをあげられる	*はねをあげてもら

×アンケートに答えられる

Ⅲ 自動詞の能動文を補文とする場合

入る	☆部屋に入られる	部屋に入ってもらう
乗る	☆車に乗られる	車に乗ってもらう
泊まる	☆客に泊まられる	客に泊まってもらう
立つ	☆前に立たれる	前に立ってもらう
逃げる	☆夫に逃げられる	老人から先に逃げてもらう
死ぬ	☆妻に死なれる	妻にいっしょに死んでもらう
行く	☆先に行かれる	先に行ってもらう
来る	☆早く来られる	早く来てもらう
起きる	☆早く起きられる	早く起きてもらう
休む	☆部下に休まれる	部下に休んでもらう
泣く	☆子供に泣かれる	*子供に泣いてもらう
雨が降る	☆雨に降られる	*雨に降ってもらう
晴れる	*晴れられる	*晴れてもらう
倒れる	☆大黒柱に倒れられる	*大黒柱に倒れてもらう
治る	☆早く治られる	*早く治ってもらう
似る	☆悪いところばかり似られる	*似てもらう
勝つ	☆きれいなチームに勝たれる	*勝ってもらう
負ける	☆好きなチームに負けられる	負けてもらう

注

(1) 学習者の誤用例、非用例および正用例については、動詞分類表の中にあげた。これらは国際基督教大学（中級後期、上級）、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（上級）、インドネシア大学（初級）でのものである。インドネシア語話者の受身の誤用に関しては、田中(1991)を参照

(2) 間接受身を作る動詞の範囲は直接受身を作る動詞の範囲より広いが、どちらの受身も作らない動詞もある。三上(1972)のいう「所動詞」である。代表的なものとして、「ある、見える、聞こえる、(匂いが、音が)する、要る、似合う、できる、可能を表す動詞(飲める、読める)の類」があげられる。

(3) 「直接受身文」「間接受身文」および「中立受身文」「被害受身文」に関しては、久野(1983) p192 および井上(1983) p25を参照

(4) したがって「迷惑・被害の受身」というとき、その動詞が能動文で目的格にくるもの(人)にとって一般に不利益の意を含んでいる場合には、受身文にすることによって能動文になかった迷惑や被害の意味が新たに加わるのではないので、「中立受身」であり、ここでの検討対象ではない。これらの動詞には「～てもらう」をつけることが出来ない。これらは、巻末の動詞分類表において▲印を付したもので、例えば、I-1-A2 苦しめる-苦しめられる、I-2-A1 殺す-殺される などの動詞である。「迷惑・被害の受身」を完全に習得していないために、受身文にすることによって意図せずに迷惑や被害の意味が出てしまったり、また逆に受身文にすれば迷惑な感じが的確に出るのに、その受身文をうまく使えない例は多い。

また、三上(1953)は「直接受身」を「まともな受身」、「間接受身」を「はた迷惑の受身」と呼んでいる。「はた迷惑の受身」は「間接受身」だけから作られるとしているが、本稿の「迷惑・被害の受身」は「間接受身」と「直接受身の一部」から作られるのであって三上の「はた迷惑の受身」とは異なる。

(5) a 他動詞の直接受身(XがYニ～をVサレル)とb 他動詞の間接受身(XがYニ～をVサレル)とは下記の例に見るように、構文上同じであるために混乱を招くことも多い。この場合、学習者は意図しないのに迷惑や被害の意味を表してしまうことがある。

a 私は友人に声をかけられた(他動詞の直接受身)

b 私は友人に手紙を読まれた(他動詞の間接受身)

(6) 本稿の分類では、直接受身については、他動詞を「有対他動詞」と「無対他動詞」に分けて考察した。早津(1990)にならい、対応する自動詞のある他動詞を「有対他動詞」、対応する自動詞のない他動詞を「無対他動詞」と呼ぶ。詳しくは、早津(1990)参照

(7) 田中・館岡(1991)では、「受身」と「～てもらう」による動詞の分類を中心に論じたが、今回は、動詞分類の枠組みを再度検討するとともに、どのような動詞が「迷惑・被害の受身」を作るのかという考察を通して、「受身」と「～てもらう」の使い分けについて検討した。

(8) 「先生に作文をほめられた」は間接受身だが迷惑の意味をもたない。この文は「わ

たしニ作文ヲほめた」というように直接受身に直すことができ、私に直接働きかけるからだと考えられる。

(9) 「持ち主の受身」のほかに、動作の向けられる対象の受身（「タクシーに泥水をかけられた」など、吉川(1989)参照）や、他動詞を補文とする受身（「家の前にビルを建てられる」など）も間接受身である。

(10) 動詞の使役形、その短縮形も対象に強制的な働きかけをするので、被益（使役受身）は当然「迷惑・被害の受身」になる。

行く	行かせる（使役）	行かせられる（被益）
	行かす	行かされる

(11) 「二格に対して行為を要求する動詞（C1）」は、意味的に、命じる、要求する、禁じるなど、対象（二格）に対して何らかの行為を直接的に要求するもので、本来強制的な意味合いを含んでいる。これらの動詞は受身にすることによって新たに迷惑・被害の意を含意するのではないのでここでの検討対象ではない。働きかけが「直接的」であるという意味でも、「迷惑・被害の受身」を作らない。

(12) 「席を譲る」「教える」「説明する」「贈る」（C2b）は場面によって「迷惑・被害の受身」とともに「中立受身」も作る。

(13) 久野(1983)によると、「二格」にくる受身文深層構造の主文主語が、埋め込み文によって表される行為・心理状態に直接的にインヴォルヴされていればいる程、受身文は、中立受身として解釈し易く、そのインヴォルヴメントが少なければ少ない程、「迷惑・被害の受身」の解釈が強くなる。また仁田(1982)によると、他者への「働きかけ」のありかたが、その文がどういった文として受動化するかに影響することになり、受動化の能力は「働きかけ性」の大小に比例する。

(14) 益岡・田窪（1989）参照

(15) 「迎えに行く／来る」は「迎えに＋行く／来る」として自動詞と考えることもできるが、他の言語では一語で表す場合もあるので、ここでも一語として扱う。

(16) C2a「～ニ声をかける」、C2b「～ニ席を譲る」などは一語の動詞と考えればB「二格」に分類されるが、本稿では形態で区別しC「ニ～を格」に分類した。

(17) 「電話をかける」は、学習者がよく使う基本動詞の中で、注意を喚起しておかなければならないもののひとつである。

「電話をかける」

Aが私に電話をかけてくれた	私はAに電話をかけてもらった
*Aが私に電話をかけた	私はAに電話をかけられた
Aが私に電話をかけてきた	
Aから電話がかかってきた	

（私はAに／Aから電話をもらった）

「小包を送る」も「電話をかける」と同様であり、「迷惑・被害」の意味でも「受益」の意味でもなく、中立に用いるには、方向を示す補助動詞「～てくる」をつけなければならない。

(18) Dの動詞はそれ自体が受動態の側にあるので、受身形はない。

[能動文]	[広義の受動態]	[受身形]	[～てもらう]
Yが私ニ ～をくれる	私はYに ～をもらう	*もらわれる	私はYニ ～をもらってもらう

また能動文において「私」をヲ格にとる場合には「もらわれる」は非文ではない。

～ヲ <u>もらう</u>	叔父に <u>もらわれる</u>	幼馴染みに <u>もらってもらう</u>
---------------	------------------	----------------------

(19) 間接受身に関しては、IIの「持ち主の受身」および、それに相当する「～てもらう」文以外の、学習者の使用例はない。

[参考文献]

- 井上和子編 (1983)『日本語の基本構造』講座 現代の言語 1 三省堂
- 井上和子編 (1989)『日本文法小事典』大修館書店
- 奥津敬一郎 (1983)「何故受身か? - 視点からのケーススタディ - 『国語学』
132
- 久野 障 (1983)『新日本文法研究』三省堂
- 佐藤琢三 (1991 6 9)「日本語の相対自動詞と受動態」日本言語学会102回
大会研究発表要旨
- 柴谷方良 (1978)『日本語の分析』大修館書店
- 柴谷方良他 (1990 6 3)「間接受身の意味と発達」日本言語学会第100回大会
研究発表資料
- 鈴木重幸 (1972)『日本語文法・形態論』教育文庫 3 むぎ書房
- 田中真理 (1991)「インドネシア語を母語とする学習者の作文に現れる『受
身』についての考察」『日本語教育』74号 日本語教育学会
- 田中真理・館岡洋子 (1991)「『受身』と『てもらう』からみた動詞分類」
『日本語教育・実践と考察 浅野百合子先生古稀記念論集』浅野百合子
先生古稀記念論集刊行会
- Yoko Tateoka (co ed.) (1991) Formal Expressions for Japanese Inter-
action, The Japan Times
- 寺村秀夫 (1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版
- 西川真理子 (1991 6 9)「日本語の受身と『被害』の意味」日本言語学会102
回大会研究発表要旨
- 仁田義雄 (1982)「再帰動詞、再帰用法 - Lexico-Syntax の姿勢から -」
『日本語教育』47号 日本語教育学会
- 早津恵美子 (1990)「有対他動詞の受身表現について - 無対他動詞の受身表
現との比較を中心に -」『日本語学』vol. 9 5月号 明治書院
- 益岡隆志・田窪行則 (1989)『基礎日本語文法』くろしお出版
- 三上章 (1972)『現代語法序説 - シンタクスの試み』くろしお出版
- 水谷信子 (1985)『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版
- 村木新次郎 (1991)『日本語動詞の諸相』日本語研究叢書 ひつじ書房
- 森田良行 (1988)『日本語の類意表現』創拓社
- 吉川武時 (1989)『日本語文法入門』NAFL選書 アルク